



2022年1月19日

アウディ ジャパン
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディコミュニケーションセンター

ダカールラリー結果：Audi RS Q e-tron が新たな時代の幕開けに成功

- 4回のステージ優勝と合計14回の表彰台を獲得
- AUDI AG 技術開発担当取締役 ホフマン：アウディはパイオニアの役割を果たす
- Audi Sport GmbH マネージングディレクター シーバッハ：アウディにとって歴史的な結果

(ドイツ本国発表資料) ジェッタ/ノイブルク アン デア ドナウ：アウディ史上もっとも高度な構造をもつレースカーが、ダカールラリーの炎暑の中、素晴らしい成績を残しました。サウジアラビアでデビューし、世界でもっとも過酷なオフロードラリーに参戦した3台のAudi RS Q e-tronは、すべての車両が優秀な成績をおさめゴールしました。3台が砂漠を走った合計距離は2万4,000kmに達しました。これはアウディが実地テストを行った8,700kmの約3倍に相当します。マティアス エクストローム/エミール ベリークヴィスト組は、過酷なコンディションとなった今回のダカールラリーにおいて、アウディ勢最高となる総合9位を獲得。e モビリティ時代の到来に合わせ、アウディはオフロードラリーの世界においても新境地を切り開きました。

AUDI AG 技術開発担当取締役のオリバー ホフマンは、次のように述べています。「アウディは、今回のダカールラリーで、スタート時点からパイオニアとしての役割にふさわしい走りを見せました。電動ドライブトレイン、高電圧バッテリー、そしてきわめて効率的なエネルギーコンバーターを組み合わせたAudi RS Q e-tronに採用された代替駆動コンセプトは、私たちのあらゆる期待に応えてくれました。アウディは、この世界でもっとも過酷なラリーを含め、40年以上の長きにわたり、革新的なテクノロジーでモータースポーツの世界に繰り返し感動を与えてきました」。アウディは、わずか1年余りでRS Q e-tronを開発し、準備を整えました。きわめて効率的な電動パワートレインを搭載した3台のAudi RS Q e-tronは、低排出ガス車両を対象として新設されたT1 アルティメットクラスに参戦し、複数のステージ優勝を達成し、歴史を刻みました。

ダカールラリーで世界最多記録となる14回の優勝経験を持つステファン ペテランセルは、このドライブトレインがもたらす感動について、次のように要約しています。「私は砂漠で数多くのコンセプトカーを走らせてきましたが、Audi RS Q e-tronは飛び抜けてセンセーショナルなクルマでした。大きなトルクを発生する電動駆動システムは、私のドライビングスタイルに完璧に合っています」。同じフランス国籍のエドゥアール ブーランジェとともに完走を果たしたペテランセルは、第10ステージを制しました。ダカールラリーにおける彼のステージ優勝は、これで通算82回目となります。しかし、レース序盤のダメージにより、昨年ダカールラリーを制したペテランセルでさえ、上位入賞は困難な状況に追い込まれました。彼は、第2ステージで岩に当たり、リムを破損し、サスペンションにも大きな損傷を受けました。修理が完了した時点で、ステージ最長時間を超過したことによるペナルティを課され、ペテランセルは最後尾からのスタートを余儀なくされました。それ以降、ペテランセルとブーランジェはチームのことを最優先に考え、チームメイトのサポートに回りました。

カルロス サインツは、そのサポートの直接的な恩恵を受けました。第4ステージから第6ステージの間で何度も行ったショックアブソーバーの交換作業もそれに含まれます。同郷のスペイン人、ルーカス クルスがナビゲーションを担当したサインツの車両は、すでに第3ステージでアウディの歴史に新たな記録を残しました。サインツは、アル アルタウィヤからアル カイスマに至る過酷なルートで、Audi RS Q e-tronにステージ初勝利をもたらしました。そして、8日後にも再度ステージ優勝を果たします。サイ

ンツは、次のようにコメントしています。「とくにレース後半では、典型的なダカールラリーのルートが続きました。オフロード、大小の砂丘、そして方向感覚を失わせる風景の組み合わせは、きわめて多様な要求の厳しいものでした。私たちはエンジニアの協力により、ラリー期間中も車両セットアップの改善を続けました。すべてのスタッフに本当に感謝しています」。世界ラリー選手権を2度、ダカールラリーを3度制覇した経験を持つサインツもまた、各ステージで好成績を残したものの、総合で上位に入賞することはできませんでした。レース2日目において、ロードブックの不正確なルート記述により、多くのナビゲーションエラーが発生。カルロス サインツ/ルーカス クルス組は2時間22分のタイムロスにより、最終的に12位でフィニッシュしました。

マティアス エクストローム/エミール ベリークヴィスト組も同じ場所で道に迷い、1時間45分を失いました。しかし、ダカールラリーに参戦するのは2度目で、自動車カテゴリーでは初参戦となるこのスウェーデン人ペアは、多くのことを学ぶことができたと言っています。DTM選手権を2回、世界ラリークロス選手権を1回制したエクストロームは、次のようにコメントしています。「チームメイトが、数多くのヒントを教えてくださいました。そして、リズムも日々良くなっていきました。砂丘は、あいかわらず私にとって大きな挑戦です。その点で、ステファンとカルロスは、長年の経験によるアドバンテージを持っています。私はつねに安全を優先し、あまり激しくアタックをしないように心がけました」。結果的には、砂漠の経験がもっとも少ないチームが最高位を残すことができました。このスウェーデン人ペアは、最初の23位から9位まで順位を着実に上げました。第8ステージではステージ優勝、トップ3の表彰台にも2度上がった彼らは、あらゆるモータースポーツの中でもっとも経験が求められる砂漠のラリーで、着実な成長を見せました。

チーム Audi Sport は、Q-Motorsport と協力してダカールラリーの準備と参戦を行いました。スヴェンクヴァントが率いるこのチームは、数十年にわたる参戦実績を持っています。Q-Motorsport マネージングディレクター兼チーム代表のスヴェンクヴァントは、次のように述べています。「この野心的なプロジェクトを実現し、協力して最初から結果を出せたことに対し、アウディに感謝しています」

Audi Sport GmbH マネージングディレクター兼アウディ モータースポーツ部門統括責任者のユリウスシーバッハは、次のように述べています。「私たちのドライバーチームは4つのステージ優勝を獲得し、毎日の表彰台には合計14回も上ることができました。この結果は、ダカール初参戦の私たちの期待を上回る結果です。現地のチームだけでなく、ドイツ国内の関係者も含めて、感謝したいと思います。またスヴェンクヴァントと彼のチームのサポートに感謝します。3日目という早い段階で、カルロス サインツの Audi RS Q e-tron が歴史的な優勝を収めたことは、情熱的な努力の賜物であり、このコンセプトがダカールラリーで総合優勝できる能力を備えていることを証明するものです。アウディは、電動駆動コンセプトでステージ優勝を収めた初めてのチームとなりました。これは、素晴らしいチームパフォーマンスの結果です。次のダカールでの目標は、総合優勝です。ドイツに戻ったら問題点を洗い出し、Audi RS Q e-tron をさらに改善して、さらにいくつかのレースに投入する予定です」

追加コンテンツ

>>[ダカールラリーのプレスキット](#)

>>[ダカールラリーのギャラリー](#)

>>[ダカールラリーに参戦しているアウディの基本情報](#)

>>[最終結果](#)

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。